

## 研究主題

# 「自他を大切にし、よりよく生きようとする児童の育成」

～考えを深める道徳科の指導法の工夫、改善を中心として～

加須市立志多見小学校

### 1 研究主題の設定と理由

本校の学校教育目標は、「よく考える子」「思いやりのある子」「ねばり強く元気な子」である。道徳教育の要である道徳科の指導法の工夫・改善を軸にし、「思いやりのある子」の具現化を図っていきたいと考える。そこで、本校の課題を明確にするために、アンケート調査を実施した。その調査結果から、「自己肯定感」が低く、相手の気持ちやその場の状況を考えて対応していく「自主性」「規則の尊重」等に課題が見られた。予測困難な時代を迎え、こうした社会を生き抜いていくためには「生きて働く道徳性」を育てるとともに、「豊かな心」を育むことが重要であると考え、本主題を設定した。

### 2 研究の仮説

- (1) 児童が問題意識をもち、主体的に道徳的価値について語り合う道徳科の授業を展開すれば、自他を大切にし、よりよく生きようとする児童を育成できるであろう。
- (2) 道徳科と全教育活動との関連や、家庭・地域との連携を生かした道徳教育を推進し、豊かな体験活動を充実すれば、自他を大切にし、よりよく生きようとする児童を育成できるであろう。

### 3 研究の経過

月	内 容
4 月	・本年度の研究と研究主題の検討・研究の方向性と研究組織づくり ・研修計画の検討・授業者の決定
5 月	・専門部会・校内研修 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 浅見 哲也 先生 ・加須西中学校区保幼小中一貫教育事業 (道徳授業への教育の手立て、学校・地域の連携の手段模索)
6 月	・指導案の検討・教材吟味 ・校内授業研究会 研究授業 6年1組 「ロレンゾの友達」 研究協議 東部教育事務所教育支援担当指導主事 鈴木 久美子 先生 加須市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事 高橋 一也 先生
7 月	・専門部会・指導案の検討・教材吟味・校内研修 ICT機器を効果的に活用した授業づくりについての研修 ベネッセ ICT機器活用支援員 白石 雅己 先生 ・校内道徳教育研修会 (低・中・高ブロック・指導案検討会)
8～10 月	・1学期の反省と課題 (校務支援システム：チームによる評価) ・指導案の検討

11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究会・研究授業 3年1組「ひきがえるとロバ」 研究協議 埼玉県教育局市町村支援部 義務教育指導課教育課程担当指導主事 山本 直人 先生</li> <li>・東部教育事務所訪問 研究授業 2年1組「オレンジ色の木の实」 研究協議 東部教育事務所教育支援担当指導主事 鈴木 久美子 先生</li> <li>加須市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事 高橋 一也 先生</li> <li>加須市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事 三好 貴尋 先生</li> <li>加須市立教育センター次長 鶴飼 道男 先生</li> <li>・全校道徳「フリー参観：保護者への授業公開」</li> <li>・家庭教育講演会「家庭で育む思いやりと自己肯定感」 臨床発達心理士・公認心理師・鈴木 智子 先生</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢と豊かな心をはぐくむ講演会事業「命の大切さについて」 指導者 公益社団法人埼玉犯罪被害者援助センター 相談員 小松原 佑佳梨 先生</li> <li>・専門部会・指導案の検討</li> <li>・2学期の反省と課題（校務支援システム：チームによる評価）</li> <li>・本発表の向けての環境整備</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育研究発表会</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ</li> <li>・3学期の反省と課題（校務支援システム：チームによる評価）</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度への課題・来年度の研究について</li> </ul>

#### 4 研究の内容

##### (1) 授業研究部

##### ① 学習指導過程「志多見小スタンダード」の改善

「志多見小スタンダード」を軸にした授業を実践する。しかし、型に捉われることなく、教師が明確な指導観をもって多様な指導法を取り入れながら道徳科の授業に臨むようにしている。今年度は、「物事を多面的・多角的に考えることができる発問の工夫」、「物事を多面的・多角的に考えることができる話合いの工夫」を研究の中心課題とした。



志多見小スタンダード

##### ② 発問の工夫

校内研修で、浅見調査官による指導を受け、道徳科のねらいを達成するための中心発問や発問構成のつくり方等を具体的に学び、授業に生かしてきた。

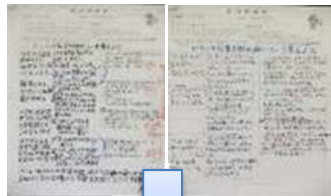


##### ③ 一つの授業を協働でつくる校内体制

ねらいの設定・

中心発問・発問構成をチームで考え  
模擬授業を行った。

「補助発問」「問い返し」などを考え、  
更に発問を練り上げた。



ワークショップ型の教材吟味

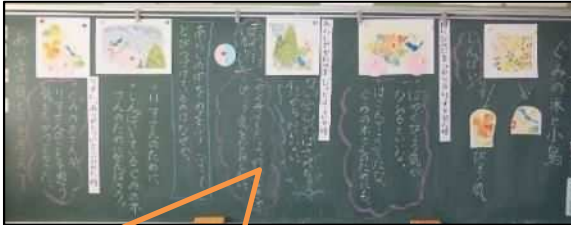
ねらいの設定  
中心発問  
発問構成



模擬授業

④ 「場面発問」・「テーマ発問」を生かした板書の工夫

多面的・多角的な思考を促すために、場面に着眼するか、テーマに着眼するかで発問を工夫し板書に生かした。児童の「思考の流れ」を可視化し、更に「思考を深める」一助とした。



場面発問型の板書例：縦書き  
2年「ぐみの木と小鳥」(親切、思いやり)

テーマ発問型の板書例：中心を浮き立たせる  
2年「黄色いベンチ」(規則の尊重)



⑤ 話し合いの工夫

授業者は、常に明確な指導観をもち授業を行った。多面的・多角的な思考を促し、道徳的価値について、児童が自分事として考えられるように様々な工夫をした。



学習形態の工夫



ICTの活用



役割演技



心のスケール

⑥ 評価を生かした授業改善

ポートフォリオ評価とチームで行う評価を行った。道徳ノート、感想文、作文、ワークシートなどの蓄積物から児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、授業改善等に活かした。

(2) 環境整備部

① 「思いやりプロジェクト」の作成と活用

小学校6年間・中学校3年間の学びの連続性を生かした道徳教育を推進するため、加須西中学校に進学する不動岡小・礼羽小・志多見小が連携し合同研修会を行い、「思いやりの心の育成について」や今年度の課題等を話し合った。



小・中合同研修会

「彩の国の道徳」を別業や年間計画に明記し、意図的・計画的に指導ができるようにした。

B-(6) 親切、思いやり	5 はやとのこころ 24 はしの上のおおか 30 ないちやつた	心を つなごう	共感と連帯感 UD	12	2年生と遊ぼう 友達と仲良く
B-(7) 感謝	16 はちさんのバッジ		コミュニケーション 能力	10 3	感謝の会 6年生を送る会・卒業式 ふれあい給食
B-(8) 礼儀	1 あかるはあいなつ 23 ほっかほっか		コミュニケーション 能力	4 11	入学式 卒業式 思いやりプロジェクト
B-(9) 友情、信頼	22 くりのみ 32 二つの小鳥		共感と連帯感 人間の尊敬・価値 の尊重・UD	11 2	1年生を迎える会 運動会 はじめての運動会
C-(10) 規則の	11 おかしくないかな 19 なるきちのいたずら ◆16 かくれんぼ				
C-(11) 公正、公平、社会正義	8 みらいくんのお 14 じゃんけんぼん				
労働、勤	4 ぼくまきゆうしよくとうぼん ◆17 おそつじ次すま				

ねらいとする道徳的価値と他教科を有機的に結びつけ「思いやりの心」を育むことができるようにした。

## ② 家庭・地域との連携

道徳教育の啓発を行うため、道徳だよりの発行・家庭教育講演会・全校道徳等による情報発信や、道徳のノートを活用した保護者との双方向のやり取りを行った。



家庭教育講演会「家庭で育む思いやりと自己肯定感」  
臨床発達心理士・公認心理師  
鈴木 智子 先生



夢と豊かな心をはぐくむ講演会  
事業「命の大切さについて」  
指導者 公益社団法人埼玉犯罪  
被害者援助センター 相談員  
小松原 佑佳梨 先生



規律ある態度「あいさつ」の  
意義や達成率を道徳通信に掲載

## ③ 道徳的な環境整備

教室には、「道徳の足あと」を掲示した。教材コーナーを充実させるとともに、廊下には、「ぼかぼかの実」を掲示した。児童が常に道徳的価値に触れあう機会を多くしたり、児童相互が認め合う場をつくったりすることにより、自己肯定感を高めた。

## ④ チームで行う評価

休み時間の過ごし方、清掃活動や縦割り活動などの児童の様子を全校の教師が互いに見守り、校務支援システムに蓄積することによって、児童のよさを情報共有できるようにした。児童や保護者にフィードバックし、認め励ます評価につなげ、自己肯定感を高めた。

## 5 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ① しだみん「道徳ノート」やICTを効果的に活用することで、児童が他者と協働しながら自分の考えを深めたり、自分との関わりで道徳的価値を考えたりすることができるようになってきた。
- ② 「思いやりプロジェクト」を活用し、小・中での学びの連続性を意識した取組を行うことにより、教師の道徳教育に対する意識の高揚が図られ、全体計画（別葉を含む）の実効性を高めることができた。
- ③ 小中一貫教育事業で、規律ある態度「あいさつ運動」を実施することにより、自主的に大きな声で挨拶をしようとする児童が増え、実践意欲を高めることができた。

### (2) 研究の課題

- ① 「志多見小スタンダード」をさらに改善し、多様な指導法の工夫を取り入れた授業展開や評価の在り方について、一層研究を深める。
- ② 家庭・地域への道徳教育に対する啓発活動の一層の充実改善を図る。